

岩手県人会わんこそば祭り 女性は84杯の三宅さん2連覇 15/05/20



競技の部の様子

岩手県人会（千田曠暁会長）主催の第9回わんこそば祭りが、17日午前11時からサンパウロ市リベルダーデ区の同県人会館で開催された。

当日は約200席用意された席がすべて埋まり、満席の状態が祭りの終了1時間前まで続く盛況ぶりだった。来場者には非日系ブラジル人も多く、千田会長も「県人会の若い人がフェイスブックに載せてくれたお陰で、たくさんのブラジル人が来てくれた」と喜んだ。

今回初めて来たという馬場セツ子さん（77、東京）は、「そばが美味しいと聞いて今日は来た。ブラジルで食べるそばは今ひとつだが、ここのそばはとても美味しい」と満足そうに語った。

わんこそば競技は子供の部1回、女性の部が2回、男性の部が5回、計8回行われた。子供の部では3歳の参加者もあり、会場から大きな声援が飛んだ。競技の3回目では記録が並び、千田会長が「今までやったことがない」という勝者決定戦が5分後に行われた。出場者の同僚や友人、家族がステージ前に詰めかけ声援を送り、会場の盛り上がりは頂点に達した。また、勝者決定戦は行われなかったが、5回目の競技でも記録が並ぶなど、熱い戦いの連続となった。

わんこそば競技を見たブラジル人も「初めて見たけれど、すごかった。来年は挑戦してみたい」と興奮気味に語った。女性の部では、三宅みのりさん（38、大阪）が84杯の記録を叩き出し、他の参加者を引き寄せず2連覇した。昨年の77杯より今年はさらに7杯多い84杯で優勝し、場合によっては男性の部でも優勝可能という圧倒的な強さを誇った。三宅さんは「お腹が空いていたけど、食わずに我慢しました」と笑い、競技後にゆっくりとそばを堪能していた。2015年5月20日付

◎

わんこそば祭りには、カワイイ大使でロリータの松田明美さんもイベントの案内を兼ねて来場していた。競技にも参加していたのだが、そこはやはりカワイイ大使。箸を使わず手づかみで食べる競技者もいる中、1人優雅にお上品に

食べていらっちゃった。競技後に話を伺うと、「服を全く汚しませんでした」とさすがの一言を放ち、カワイイ大使として抜かりはなかった。大会を通し感心したのは、おかわりのそばを入れる係の方々。あの競技者と一体となった手際の良さは素晴らしかった。

◎

岩手県人会＝好評のわんこそば祭り＝子供、女性も競技に奮闘

ニッケイ新聞 2015年5月22日



早食い競争で必死にそばをかき込む出場者(提供写真)

岩手県人会(千田曠暁会長)は17日、同県人会館で「第9回わんこそば祭り」を開催した。昨年を超える超満員の300人以上が訪れ、特製だしで食べ放題の日本製そばを堪能した。

3分間で食べた杯数を争う競技の部には、42人がエントリーし、ちびっ子、女性陣の活躍も光った。3～11歳が出場したちびっ子部門では、最年長のタニダ・リュウタロウくんが35杯で優勝。女性はミヤケ・ミノリさんが84杯、男性はアリヤマ・ジョルジさんが88杯で優勝した。

千田会長は「隠し味も加えて毎年改良している。今年も『おいしい』と評判だった。競技中は客席からも、声援が飛び交う盛り上がりだった」と喜んだ。

□関連コラム「大耳小耳」□

岩手県人会が毎年開催している「わんこそば祭り」。役員の子がフェイスブックで拡散したことも影響してか、非日系も多かったという。早食い競争の様子はビデオカメラで撮影しているので、インターネットを活用して動画をアップすれば、さらなる集客が期待できそう。同県人会にとって収入源の同行事。今回ですでに超満員となった会場で、さらに増えるのはうれしい悲鳴かも。